

会 議 録

会議の名称	第2回行田市総合振興計画審議会
開催日時	令和2年1月27日（月） 開会：午後2時00分 閉会：午後3時30分
開催場所	行田市産業文化会館 第2会議室
出席者氏名	田尻要会長、高澤克芳副会長、木村博委員、橋本祐一委員 岸田昌久委員、大関守宏委員、細井保雄委員、坂根茂夫委員 吉田廣明委員、小林定春委員、大谷春美委員、関口正彦委員 町田眞一委員、大澤由子委員、碓井進太郎委員、高鳥和子委員 山崎孝子委員、磯部佑二委員
欠席者氏名	小林亘委員、根本和雄委員、荒岡浩徳委員、今井明委員
事務局	畔上総合政策部長、菅原企画政策課長、新井企画政策課政策推進幹、 横倉企画政策課主査、渋澤企画政策課主任
会議内容	(1) 現行計画の検証について (2) その他
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 委員名簿 ・ 資料1 第5次行田市総合振興計画検証結果報告書 ・ 資料2 みんなで目指すまちづくり会議 提言書 ・ 資料3 団体ヒアリング調査結果のまとめ ・ 参考資料 第5次行田市総合振興計画検証結果報告書 資料編 ・ 参考資料2 市民意識調査等周辺市比較 ・ 諮問書の写し
その他 必要事項	傍聴者1名

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司 会	<p>1 開会</p> <p>2 市長あいさつ</p> <p>3 諮問</p> <p>4 議事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これより議事を進行する。諮問に移る。この審議会は行田市総合振興計画審議会条例第2条の規定により、市長からの諮問に応じて総合振興計画の案について調査・審議することとされている。今回、石井市長より田尻会長に諮問書を渡すこととする。 <p style="text-align: center;">（石井市長から田尻会長へ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・続いて次第の4、議事に移る。議事の進行は審議会条例に基づき田尻会長にお願いする。
田尻会長	<ul style="list-style-type: none"> ・議事の前に、本日以降の会議も公開とし会議録も市のホームページ上で公開することになっていることを了承いただきたい。 ・始めに議事（1）について、事務局より説明する。
事務局	<p>（1）現行計画の検証について</p> <p style="text-align: center;">（資料1及び参考資料により説明）</p>
田尻会長	<ul style="list-style-type: none"> ・現行の第5次計画の検証結果を基に次回以降基本構想や基本計画の原案が諮問される。ただいまの説明について確認事項などはあるか。
細井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1の5ページに、緑町地区の出水対策事業について記載があるが、これは今年の台風19号以前に実施したものか、以後に実施したものか。また、6ページの「埼玉県企業局と連携した新たな産業団地整備」について、整備が遅れていると聞いたが、このようなことがないように、スピード感をもって整備を進めてほしい。また、新たな産業団地整備にあたっては、都市計画法第34条12号区域の設定により、区域区分を変更する場合と比較して進捗が早くなると思われるので検討してほしい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・緑町地区の出水対策事業は、今年の台風19号より前の平成23年に、排水ポンプ設置を行ったものである。
細井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・県においては、堤防のかさ上げや調節池造成の構想があると聞いた。今後も効果的な治水対策を検討していただきたい。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・市街化区域への編入は時間を要するので、別の手法も視野に入れ、今後の見通しやスピード感を教えていただけるとありがたい。とにかく早くこのまちが豊かになり、雇用が創出される状況を望む。 ・新しい産業団地の整備については、既存の工業団地との公平性の観点から、原則として市街化編入により進めるべきと考える。産業団地に限らず、新たな土地利用に当たっては、その目的と場所をまず優先して検討し、その内容によって区域区分変更や産業系12号区域の設定など、最適な手段を検討していく。今後庁内でも検討し、次回の審議会の基本構想の土地利用構想図という形で提案したい。
関口委員	<ul style="list-style-type: none"> ・6ページの運転免許証を自主返納しやすい環境の整備と、4ページの外出支援、移動手段の確保に向けた取組みは関連付けて進めているという認識でよいか。移動手段については、バスの利用率が上がっていない現状がある。利用が少ないから本数を減らす、減らすと利用も減るという悪循環に陥っていると思うが、何か対策はあるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・循環バスについては5年に一度見直しを行っている。デマンドタクシー事業も始まっており、循環バスの利用者数は大幅に上がっていないが、デマンド交通の利用者は増加傾向にある。循環バスとデマンド交通の組み合わせにより、交通利便性の向上を図っているところである。
関口委員	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンド交通について、利用できる台数が少なく、なかなか利用できないという話も聞くがいかか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンド交通について、時間帯によっては予約が取りにくいようである。車両を増やす等、すぐに解消することは難しいが、担当課へ伝え、使いやすいデマンドタクシーになるよう進めていきたい。
関口委員	<ul style="list-style-type: none"> ・車イスがそのまま乗せられるような車両を導入していただければと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・意見として担当課へ伝える。
磯部委員	<ul style="list-style-type: none"> ・2ページの達成度について、最も達成度の高い分野はにぎわいで

あり、観光はそれなりに達成されている。商業はあまり良くないが、出荷額は改善されている。農業はそれなりに良いということで、達成にはなっているが、額が減少になっていて概ね達成となっている部分は、実態と合っていないと感じるので今後検討していただきたい。若小玉の産業団地の場所は、今の富士見工業団地の隣ということで少し安心したが、これまでの工業団地やものづくり大学、また今後産業交流拠点などをとっても、市街化区域から離れた場所に作られていると感じる。例えば、ものづくり大学は市域の端に立地しているため、学生は行田市ではなく吹上駅周辺に住んだ方が東京にも出やすく便利ということもあり、結果的に行田市にとってはあまり良い場所ではなかったのではないかと。こういったものを検討する際には、もう少し中心市街地への波及効果を考えていただきたい。ものづくり大学の例でいうと、学生1人の生活費が月10万とすると、1,000人が市内に下宿すると月1億円になる。市内の空き室にそれらの学生が入居すれば、家主も潤うし、かなりの経済的な波及効果見込めるのではないかと。工業団地も、できるだけ市内の波及効果を考えて立地を考えて欲しい。また、国道125号沿いに産業交流拠点を作るという話を聞いたが、125号より17号の方が良いのではないかと。125号を通るのはトラックが多く沿線は農業も盛んな地域である。17号沿線であれば、東京方面からの延長線上で集客も見込め、効果的なのではないかと。次回の土地利用構想に向けて検討し立地を考えていただきたい。

事務局

- ・次期総合振興計画のまちづくり指標については、数値で効果を測るものも取り入れていくことを検討したい。
- ・産業交流拠点は、現時点での立地計画は国道125号の総合公園付近である。以前は17号バイパス沿いで検討した時期があったが、土地利用の調整が整わず実現しなかった経緯がある。それも踏まえて、今回は国道125号沿道に計画している。予定地は、県事業である都市計画道路常盤通佐間線の整備が進んだ場合、幹線道路が交わる1つの拠点になると考えている。

岸田委員

- ・資料2の表1では評価方法が6段階に分かれているのに、表2で

	<p>は達成・概ね達成・改善・やや改善をまとめて「改善」としてカウントしている。目標値を100%達成した「達成」と、目標に対して2割以上5割未満改善した「やや改善」では大きな違いがあると思う。甘く見ればそういう判断で良いかもしれないが、厳しく見れば「達成」以外は全て達成できなかったという見方もできる。目標設定の手法や評価はどのような工夫をしているのか聞きたい。ただ目標を設定するだけでなく、目標の優先度や困難度・重要度も計画には大事なのではないか。また、市長のマニフェスト・公約は計画に取り上げられるのか。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年に第5次総合振興計画を作成したが、その年から継続して指標を測るためにこの評価基準で進めている。評価については問題点もあるが、次のまちづくり指標を設定する際には難しさ・重要度も踏まえて新たな指標を作り、新しく基準を考えたいと思う。 ・長期的な計画である総合振興計画においては、市長のマニフェストと関連する部分もあると思うが、直接それを盛り込むようなものではなく、別のものとして考えている。ただ市長の意見も十分に反映し策定を進めていきたい。
山崎委員	<ul style="list-style-type: none"> ・51ページのまちづくり指標の達成状況、No.86中学校対象の学習状況調査で、現状値が101.2%、10年後の目標値が100.0%、これが悪化という評価なのはなぜか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・No.86の指標については、県平均との比較として設定しており、県平均を100とした場合の指数を目標として設定している。よって、設定時は県平均を1.2%上回っていたが、現時点では県平均を下回り97.6%となっているため、「悪化」という評価としたものである。行田市では平成16年から国の特区制度を使って少人数学級編制を開始し、市費により先生を募集し運用してきたが、近年は効果が出ているのかなど、様々な意見も出ている。このようなことから、今後は一つのクラスを複数体制で教えていく方向に転換していくことを教育部局でも検討している。それを踏まえた基本構想・基本計画を提案したいと考えている。
山崎委員	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的に小中一貫教育の取組みが進んでいるが、行田市でもそう

事務局	<p>いった方向性を検討しているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内には、子どもの減少により複式学級になっている学校もある。全体の学校再編成の中で、小中一貫教育についても教育委員会で検討しているところである。
橋本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅の事業について、第5次総合振興計画の時にあったものなのか、第6次総合振興計画に盛り込むのか、盛り込むのであればどの程度盛り込むのか聞きたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・産業交流拠点については、最初に計画に位置付けられたのは、平成25年度から始まった都市計画マスタープランである。その後、産業交流拠点に関する基本計画も策定しており、今後も推進していくとしているため、第6次総合振興計画でも何らかの位置づけは考えている。
田尻会長	<ul style="list-style-type: none"> ・次回以降、基本構想・基本計画の原案が示されると思うが、後日でも構わないので意見をいただきたいと思う。 ・引き続き、議事（2）その他について、事務局より説明する。
事務局	<p>（2）その他</p> <p style="text-align: right;">（資料2及び資料3により説明）</p>
田尻会長	<ul style="list-style-type: none"> ・議題（1）の検証結果に加えこれらの内容を踏まえ、今後基本計画や基本構想の原案が形になると思う。何か確認事項などはあるか。
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・以前、ものづくり大学が実施したワークショップに出席した記憶がある。多くの学生が参加し、様々な提案があった。また、ワークショップだけでなく市内を個別訪問してアンケートも取った。行田市のにぎわいを取り戻すためにどうすれば良いのか、きれいなまちにするためどうすれば良いかなど、グループ討議して発表もあった。そういったこれまでの活動や成果についても、次期総合振興計画に活用されるのか。
田尻会長	<ul style="list-style-type: none"> ・4～5年前に都市計画課所管でワークショップを開催した。このような活動は継続して実施し、市民と一緒に自分のまちのことを考えていくことが重要である。ワークショップ後は市にも結果を報告させていただいた。ワークショップの成果が直接反映される

岸田委員	というよりは、参考としていただけるとありがたい。
田尻会長	<ul style="list-style-type: none">・是非、そういった積み重ねがあったということを知っておいて欲しい。・本日の議事は以上である。会議の進行を事務局へお返しする。・以上をもって、本日の予定を終了する。第3回の審議会は令和2年3月下旬を予定している。詳細が決まり次第通知する。 <p style="text-align: center;">< 閉 会 ></p>